

会 議 録		
会議名	第 2 7 回日野市地域公共交通会議	
日時	平成 3 0 年 3 月 2 0 日 (火) 1 0 : 3 0 から 1 2 : 0 0 まで	
会場	日野市役所本庁舎 5 0 5 会議室	
出席者	委員	別紙のとおり
	事務局	都市計画課 壁巢課長補佐、高橋主事、高野
議題	議事 (1) 平成 2 9 年度事業について (報告事項) (2) 平成 2 9 年度利用状況について (報告事項) (3) 平成 2 9 年補正予算 (案) について (協議事項) (4) 平成 3 0 年度予算 (案) について (協議事項) (5) 平成 3 0 年度事業計画 (案) について (協議事項) (6) その他 (報告事項)	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	0 名	
<p>開会</p> <p>2. あいさつ (会長)</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 平成 2 9 年度事業について (報告事項) 事務局から説明 (資料 1)</p> <p>(2) 平成 2 9 年度利用状況について (報告事項) 事務局から説明 (資料 2)</p> <p><意見、質問等> 特になし</p> <p>(3) 平成 2 9 年補正予算 (案) について (協議事項) 事務局から説明 (資料 3)</p> <p>(4) 平成 3 0 年度予算 (案) について (協議事項) 事務局から説明 (資料 4)</p>		

<意見、質問等>

特になし

<議決>

会長

- ・平成29年度補正予算（案）及び平成30年度予算（案）について異議ないか。
《異議なし》
- ・平成29年度補正予算（案）及び平成30年度予算（案）について承認した。

(5) 平成30年度事業計画（案）について（協議事項）
事務局から説明（資料5）

<意見、質問等>

委員

4番目の運行事業者との連携に関連して1点、2番目の新たな計画の策定について1点の2点について質問があります。

1点目として、バス停の停車位置について、例えば日野駅ですが、駅前ロータリーは歩道がマウントアップ型の歩道で車道に比べ一段高くなっているが、バスが歩道に遠い所で停車するため、車椅子利用者が乗降の際、本来高い位置にある歩道にスロープを降ろすところを車道に降ろすため、スロープの傾斜がきつくなるが、これについてバス事業者はどのように考えているか？

2点目は、新たな計画の策定ということで、昨年11月から文化スポーツ課が主催している南平体育館の建替えに伴うグループワーキングに参加しているが、南平体育館は全面的に建替えられますが、この建物はスポーツだけでなく市民の集まる場所として使えるようにと考えている。その中で、南平体育館は現在バスが通っていない。人が集まるためにはバス路線が入ることによって人が集まりやすくなるとの意見があった。私がたまたまそちらのワーキングチームに出ていたので情報提供させていただきました。

委員（回答）

バスの停車位置に関しては、今の話ですとお客様にご迷惑をおかけしており大変申し訳ないです。基本的には車椅子のお客様がいらした時には歩道にきちっと近づけて段差のない形で停車するよう指導している。この中で行き届かない面があったということで大変申し訳なく感じている。実情として、歩道にきちっと沿った形で停車しようとした時、歩道上にある構築物と接触する事故リスクがあり指導する上で徹底できていない部分がある。しかし、段差解消はやらなければならぬ引き続き指導していく。問題のある箇所については道路管理者とも連携しながら対応していきたい。

⇒南平体育館へのバス交通の導入はこれから行う新たな計画策定において市内の南北格

差の解消を行うための主要な部分の一つとなる。例えば南平駅は市内の京王線5駅のうちバスロータリーが整備されていない等の事情があり唯一公共交通が乗り入れていない。これと合わせ、市で今後行う南平体育館の建替えは市域南部の1つの拠点として考えており、ここへのアクセス向上に向けたバスルートの検討は行っていく。
(事務局回答)

委員

4番の車内環境の改善について報告させていただきます。

車椅子で利用される方の車内に設置する固定ベルトについてはこれまで固定するのに器具を箱から取り出し設置せねばならず時間を要しました。このため利用者が気兼ねしてしまうことがあった。このような中、海外の事例でももう少し簡易的に車の床から固定器具をそのまま引っ張り出して使用するような例があり、国内メーカーでも最近採用されており新車への置き換えの際には導入している。

また、3番の豊田駅南口ロータリーについてですが、昨年4月に暫定供用しておりますがバスで言うと一般路線バスが1路線（豊田駅南口から中央大学を經由して多摩センター行）とミニバスの川辺堀之内路線が乗り入れているが、結果として一般路線バスは利用者の増加が見られている。この路線は平山地区から豊田駅南口への利用者が多いが、今まで北口に乗り入れていた時はかなり時間を要していたが南口への乗り入れに変え所要時間の短縮が図られたことが利用者増につながっていると考えられる。事業者としてはロータリーの整備は有難く感じており引き続き完成形に向けていただければ新たなバス路線の検討の余地が生まれてくる。

会長

2番目の新たな「日野市地域公共交通総合連携計画」の策定についてです。

1点目として新たな「日野市地域公共交通総合連携計画」の策定の部分で、丘陵地対策とあるが、この問題を検討していくには今までの平面的な交通空白地域の定義では駄目ではないか。丘陵地対策を検討する上では、少なくとも高低差を考慮した交通空白地域の定義が必要ではないか。2点目として新たな手法の検討とあるが、具体例を示して欲しい。

⇒1点目の丘陵地対策については、今までの交通空白地域の定義で良いのかということですが、今の日野市における交通空白地域の定義はバス停から200m、鉄道駅から500mとなっている。そこでカバーできない地域を交通空白地域としているが、市内においては約2割が交通空白地域となっている。ご指摘いただいたように丘陵地対策を1つの柱として新たな交通網を作っていく中で、確かに平面的な定義だけで丘陵地対策に抜本的に踏み込んでいくことは難しく交通空白地域の定義を細分化して高低差や現場の諸条件を加味した上で対応していく必要がある。このご指摘は、今後の計画策定に向けて反映させていただきます。2点目の新たな手法についてです。現在、日野市における公共交通は市で補助金を支出しているミニバス、ワゴンタクシー、ま

た、一般路線バス及び鉄道があるが、特に市内の隅々を網羅する交通はミニバス、ワゴンタクシーとなるが、この手法だけでは交通空白地域の抜本的な解消には車両制限令等の制約を受けるなど現況では運行できない場合もあり早急な解消は中々難しい。解決策としては、車両を小型化するか道路を拓げることになるが、時間・財源・地先交渉等難しい問題がある。このため短時間での解消を目指すのであれば例えば参考資料としてお配りしている事例のように行政だけではなく、地域と協働でやっていく等、今までとは違った考え方や手法を検討していきたいと考えている。…（参考）に沿って事務局より事例紹介
(事務局回答)

会長

地域と一緒に新たな手法を取り入れていくとなると難しい問題もあると思うが、関係者で今後先進事例の視察を行うのも1つの方法と思われるがいかがでしょうか。

⇒今紹介したのは一例ではありますが、これから市としても事例研究を行うに当たり本会議の委員や賛同を得られた地域の方々と先進事例の現場を見て、携わって方々の話を聞くことは有効であり、実施に向けた大きな判断材料となることからご提案の視察についても取り組んでいければと思います。
(事務局回答)

<議決>

会長

- ・平成30年度事業計画（案）について異議ないか。
《異議なし》
- ・平成30年度事業計画（案）について承認した。

(6) その他（報告事項）

事務局から説明（資料6）

<意見、質問等>

委員

ワゴンタクシーの改良ということでステップ、手すり意外に何か改良点があるのか
⇒大きなところでは、説明したとおり今回の改良点はステップと手すりになる。以前より高齢者の利用者からは手すりの設置について強い要望があった。その中で今回実施され好評を得ている。今後も既存の車両に後付けで設置できる器具等は運行事業者との協議を経て対応していければと考えている。
(事務局回答)

会長

他にご意見、ご質問はありますか。
なければ本日の議案は終了です。

(事務局)

次回の会議では、今年度実施した OD 調査市民アンケートの結果について報告いたします。現在分析中ではありますが、今わかっている内容としては、ミニバス・ワゴンタクシーに関して両部門とも混雑時における運行間隔を1時間に1本から30分に1本にして欲しい、本数が少ないので利用しづらい等、増便についての要望が多く寄せられております。今後は、分析結果を基に新たな計画を作っていくということで、素案を作った上で委員の皆様からご意見を伺った上で修正等を経て良い計画を作っていくと考えております。このため、来年度は会議の回数も多くなりますが、この際にはご協力をお願いいたします。次回の会議は5月に予定しております。この会議の中で計画策定に向けた方針について定めていきたいと考えております。

